図書館でつながる

おはなしぽけっと代表

須藤（すどう） 和恵（かずえ）さん

昭和34年、登別市生まれ。59歳。
市立図書館のほか、学校や福祉施設などでの読み聞かせイベントを主催する市民ボランティア団体『おはなしぽけっと』代表。図書館協議会の会員でもある。
影響を受けた絵本は『うりこひめ』。

語ってくれる心地良さ

子どもの頃、勉強、特に文字を読むことが嫌いだった私。

本が好きになったのは、子どもを産んでから。なんとなく絵本を読んであげたいという軽い気持ちで、読んでいるうちに、私自身が絵本の面白さを知り、いつの間にか本が大好きになっていました。

図書館に通うようになったのも、子どものおかげでした。二人目の子どもに絵本を読んでいたのですが、一人目と違って、どうも楽しんでくれない。いっぱいの本がある図書館に行けば、気に入る本が一冊くらいはあるんじゃないかと来てみたら、思ったとおりあったんです。ちなみに、子どもが気に入った本は、私は絶対選ばないタイプの絵本でした。自分の子であっても、好き嫌いが一緒とは限りません。もし、子どもに絵本を読んでも喜んでくれないと悩んでいたら、図書館に来てみてください。

私は、登別の市立図書館が子どもにとって最高の図書館だと思っています。それは、1階にあるのは全て児童書や絵本、紙芝居だけで、児童室専用の受け付けもあるから。子どもはやっぱり楽しそうな本を手にしたら、はしゃいじゃうもの。大人のエリアと階で区分けされているので、気を使わないで子どもを連れてくることができるんです。

図書館では、本屋さんよりもはるかに多い絵本で、どれにしたらよいか迷ってしまうかもしれません。そんなときは司書の方に相談してみてください。きっと、あなたと本をつないでくれるはずです。よく『図書館は人との出会いの場』ともいわれますが、私が今、『おはなしぽけっと』の一員として、いろいろなところで読み聞かせを行っていることも司書の方のおかげなんです。図書館の片隅で、子どもに読み聞かせをしていた私を見て当時の司書の方が、おはなしぽけっとの存在を教えてくれたことがきっかけでした。

今では、読み聞かせで、少しでも多くの人に本の楽しさを伝えたいと思っています。

自分で読んだ絵本であっても、人から声に出して読んでもらったときには、違った印象になることが往々にあります。

やっぱり、絵本は人から読んでもらうことでより楽しいんです。

絵本に限らず、本は楽しくなければ読みません。子どもの頃から、本の楽しさを教えてあげて欲しい。ぜひ、こどもと一緒に本で遊んで欲しいと思います。

▲市立図書館で、毎月読み聞かせを行う須藤さん